

平成23年度 秋冬作芝関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成23年度秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成24年6月26日(火)にホテルメトロポリタン長野において開催された。
この検討会には、試験場関係者12名、委託関係者39

名ほか、計64名の参集を得て、除草剤17薬剤(112点)について、試験成績の報告と検討が行われた。
その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成23年度 秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験 判定速報

A. 除草剤

注)ア・イは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備 考	判定	判定内容
1. BAH-0902 マイクロカ ブセル ベンディメタリン:38.7% [BASFジャパン]	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 継統	札幌国際CC 東日本G研 埼玉スタジアム2002 静岡G場協会 (4)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般(特科を除く) 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 0.4mL <200~300mL> 0.5mL <200~300mL> 0.6mL <200~300mL> 対) ケイ777ア7077ア 雑草発生前 0.6mL <200~300mL>	処理120日~150日 後に雑草調査を行 う。	実・継	[秋冬作; (コウライシバ、ノバ、バーム ーググラス) 一年生雑草(特科を 除く)] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.5~0.7mL<200~300mL>/㎡ ・土壌処理 [秋冬作; (ケンタッキーブルーグラス) 一 年生雑草(特科を除く)] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.4~0.6mL<200~300mL>/㎡ ・土壌処理
	日本芝	実証試 験 新規	新中国G研 門司GC (2)	ねらい 実証試験 対象 雑草 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般(特科を除く) 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 0.6mL <200~300mL> 対) ケイ777ア7077ア 雑草発生前 0.6mL <200~300mL>	処理120日~150日 後に雑草調査を行 う。		[秋果、葉害の確認 (ケンタッキーブルーグラス)] ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、ノバ、ケンタッキーブルー グラス、バームーググラス) ・連用試験での確認 (コウライシバ、ノバ、ケンタッキーブルー グラス、バームーググラス) ・実証試験での確認 (ケンタッキーブルーグラス、バームーグ グラス)
	バームー ググラス	実証試 験 新規	西日本G研 (1)	ねらい 実証試験 対象 雑草 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般(特科を除く) 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 0.6mL <200~300mL> 0.7mL <200~300mL> 対) ケイ777ア7077ア 雑草発生前 0.6mL <200~300mL>	処理120日~150日 後に雑草調査を行 う。		

A. 除草剤

注) Aグループは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) (委託者)	作物名	試験の 種・類 新・継 適用性 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
2. BEH-447 フロアブル ネムロロン:2.2% [N イネ科作物サイエンス]	ハ-ミュー ダグラス	適用性 継続	静岡G場協会 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	ねらい	展着剤不要。 ネムロロン生育期 での薬剤散布を行 う。 処理後60日程度で の調査を行う。	実・継 (実)	[秋冬作;(コウライシバ)一年生雑 草・多年生広葉雑草] ・芝生育期 雑草生育期 ・0.15~0.25mL<150~200mL>/ ㎡ ・茎葉処理 [秋冬作;(シバ)一年生雑草] ・芝生育期 雑草生育期 ・0.15~0.25mL<150~200mL>/ ㎡ ・茎葉処理 [秋冬作;(ハ-ミューダグラス)一年 生雑草・多年生広葉雑草] ・芝生育期 雑草生育期 ・0.15~0.25mL<100~200mL>/ ㎡ ・茎葉処理
				対象 雑草			
3. BEH-507 フロアブル インダジフル:19.1% ※H21秋冬作まで 20%表記を中央値管 理の爲変更 [N イネ科作物サイエンス]	ハ-ミュー ダグラス	適用性 新規	静岡G場協会 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	ねらい	展着剤不要。 処理後120~150日 での調査を行う。	実・継 (実)	[秋冬作;(コウライシバ、シバ)一年 生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02~0.03mL <200~300mL>/㎡ ・土壌処理
				対象 雑草			
	ハ-ミュー ダグラス	倍量薬 新規	関西G研 新中国G研 (2)	ねらい		実・継 (従来 通り)	[秋冬作;(コウライシバ、シバ)一年 生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02~0.03mL <200~300mL>/㎡ ・土壌処理 継) ・効果・薬害の確認(ハ-ミューダ グ ラス) ・実証試験での確認 (コウライシバ、シバ、ハ-ミューダ グ ラス) ・連用薬害の確認 (ハ-ミューダグ ラ ス) ・緑化木への影響の確認
				対象 雑草			
	ハ-ミュー ダグラス	連用薬 新規	関西G研 新中国G研 (2)	ねらい			
				対象 雑草			
				設計 薬量 <水量> /㎡	土壌処理 芝生育期 0.03mL <200mL> 0.06mL <400mL> 0.12mL <800mL>		

A. 除草剤

注) F/G-1は新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい 試験設計 等	備考	判定	判定内容
4. FMC-01 顆粒水和 カルフェントラゾニエチ ル:40.0% [アイシシー・ケミカルズ]	バントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 真名CC 関西G研 新中国G研 かごしま空港CC (5)	ねらい コケ、単用/反復処理 対象 雑草 一年生仔科 - 一年生広葉 - 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他 〇/〇類 設計 薬量 <水量> /㎡ 全面茎葉散布 秋期芝生育期(〇生育期) 0.03g <100-200> 0.06g <100-200> 0.03g×3回(10~14日間隔) <100-200> 0.06g×3回(10~14日間隔) <100-200> 対) ナメDF 秋期芝生育期(〇生育期) 0.06g <100-200>	・効果発現及び完 成時期の確認を行 う。また、効果の持 続期間についても 確認する(特に単 用処理) ・展着剤を加用	継	継) ・効果、葉害の確認(バントグラス)
	バントグ ラス	倍量薬 害 新規	真名CC 新中国G研 (2)	ねらい 倍量薬害 対象 雑草 一年生仔科 - 一年生広葉 - 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 全面茎葉散布 秋期芝生育期(〇生育期) 0.06g <100> 0.12g <200> 0.24g <400>	・展着剤を加用		
5. GG-155 顆粒水和 イマゾグリリン:75% [住化グリーン]	コウライシ バ	適用性 継続	太平洋C美野里C J埼玉 かごしま空港CC (3)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生仔科 - 一年生広葉 全般 多年生仔科 - 多年生広葉 全般 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) イ/A-RDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g/㎡ <200-300mL/㎡>	調査は、処理後120 日程度まで行う。	実・継	[秋冬作;コウライシバ] 一年生広葉 雑草、多年生広葉雑草] ・芝生育期、 雑草発生前～発生初期 ・0.1~0.2g<200~300mL>/㎡ ・茎葉兼土壌処理 [秋冬作;コウライシバ] 一年生広葉雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～発生初期 ・0.1~0.2g<200~300mL>/㎡ ・茎葉兼土壌処理 [秋冬作;コウライシバ] 多年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生初期 ・0.1~0.2g<200~300mL>/㎡ ・茎葉兼土壌処理
	コウライシ バ	適用性 継続	太平洋C美野里C J埼玉 かごしま空港CC (3)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生仔科 - 一年生広葉 全般 多年生仔科 - 多年生広葉 全般 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) イ/A-RDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g/㎡ <200-300mL/㎡>	調査は、処理後120 日程度まで行う。	継)	・雑草発生前処理での効果、葉 害の確認(コウライシバ、コウライシ バ) ・雑草発生前での多年生広葉雑 草への効果の確認(コウライシバ) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、コウライシバ) ・連用試験での確認 (コウライシバ、コウライシバ) ・実証試験での確認 (コウライシバ、コウライシバ) ・緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注)7が-7dは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
6. MBH-021 液 アミノシクロピラクロ P:21.2% [丸和Pイワミカ]	シバ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 門司GC (3)	ねらい 対象 雑草 一年生科 - 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 全般 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草生育期、芝生育期 0.015mL<200mL> 0.02mL<200mL> 0.03mL<200mL> 比) アラコM液剤 雑草生育期、芝生育期 1mL<200mL>	処理後30~60日に て調査を行う。	実・継 実)	[秋冬作: (コウライバ、シバ) 一年 生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.015~0.03mL<200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (丸和P) ・ 散布水量100mLでの効果、薬害 の確認 (コウライバ、シバ) ・ 倍量薬害での確認 (コウライバ、シバ) ・ 連用試験での確認 (コウライバ、シバ) ・ 実証試験での確認 (コウライバ、シバ) ・ 緑化木への影響の確認
7. MBH-022 液 アミノシクロピラクロP:42% ノコP:42% [丸和Pイワミカ]	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 継続	札幌国際CC 埼玉シバA2002 静岡G場協会 (3)	ねらい 対象 雑草 一年生科 - 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 全般 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草生育期、芝生育期 0.1mL<100~200mL> 0.15mL<100~200mL> 0.2mL<100~200mL> 比) アラコM液剤 雑草生育期 1mL<100~200mL>	処理後30~60日に て調査を行う。	実・継 実)	[秋冬作: (ケンタッキーブルーグラス、ベレ ニブルーグラス) 一年生広葉雑草、 多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.1~0.2mL<100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 倍量薬害での確認 (ケンタッキーブルーグラス、ベレニブルー グラス) ・ 連用試験での確認 (ケンタッキーブルーグラス、ベレニブルー グラス) ・ 実証試験での確認 (ケンタッキーブルーグラス、ベレニブルー グラス) ・ 緑化木への影響の確認
8. MBH-113AL 液 アミノシクロピラクロP:0.0015% ノコP:0.021% N:P:K:0.1:0.15:0.1 [丸和Pイワミカ]	コウライバ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生科 - 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 全般 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉処理 雑草生育期、芝生育期 100mL/㎡<希釈せずそのまま散布> 150mL/㎡<希釈せずそのまま散布> 200mL/㎡<希釈せずそのまま散布> 対) シバニードシヤ-AL 雑草生育期、芝生育期 150mL/㎡<希釈せずそのまま散布> 参) 肥料 0. P:K:0.1:0.15:0.1 雑草生育期、芝生育期 150mL/㎡<希釈せずそのまま散布>	処理後30~60日に て調査を行う。	継 継)	・ 効果、薬害の確認

A. 除草剤

注)アザイシは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備 考	判定	判定内容
9. SB-201 乳 剤アザイシ:25% [エス・ディー・エス・パイヤ ック]	バントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 かごしま空港CC (4)	ねらい 雑草発生初期(2回処理) 対象 雑草 一年生(科) スズノササゲ 一年生広葉 - 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /ml 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.2ml/m ² →0.2ml/m ² (2回処理) <200-300ml/m ²	0.2ml/m ² の2回目 処理は、1回目処理 の1ヶ月程度後を 目処に散布する。 (2回目) 処理後 60日程度で調査す る。処理後経過を 追って観察する。 (可能であれば、来 春の状況も調査願 います。)	実・継 (実)	[秋冬作; (コライシバ', ケンタッキー ブルーグラス) スズノササゲ] 単用処理 ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.3~0.4ml<200-300ml>/m ² ・ 土壌処理 反復処理(2回) ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.2ml<200-300ml>/m ² (散布間隔は1ヶ月を目安とする) ・ 土壌処理 [秋冬作; (バントグ) スズノササゲ] 単用処理 ・ 芝生育期 雑草発生前~発生初期 ・ 0.3~0.4ml<200-300ml>/m ² ・ 土壌処理 反復処理(2回) ・ 芝生育期 雑草発生前~発生初期 ・ 0.2ml<200-300ml>/m ² (散布間隔は1ヶ月を目安とする) ・ 土壌処理 注) ・ バントグ) に対して葉が黒ずむ 場合がある
	ケンタッキ ーブルグ ラス	適用性 継続	東日本G研 埼玉G研 静岡G場協会 (3)	ねらい 雑草発生初期(2回処理) 対象 雑草 一年生(科) スズノササゲ 一年生広葉 - 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /ml 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.2ml/m ² →0.2ml/m ² (2回処理) <200-300ml/m ² 0.3ml/m ² <200-300ml/m ² 0.4ml/m ² <200-300ml/m ² 対) イグサ 芝生育期 雑草発生前 1g/m ² <250ml>	0.2ml/m ² の2回目 処理は、1回目処理 の1ヶ月程度後を 目処に散布する。 (2回目) 処理後 60日程度で調査す る。処理後経過を 追って観察する。 (可能であれば、来 春の状況も調査願 います。)		
	バントグ ラス	連用薬 継続	関西G研 新中国G研 (2)	ねらい 連用薬害 対象 雑草 一年生(科) - 一年生広葉 - 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /ml 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.2ml/m ² →0.2ml/m ² (2回処理) <200-300ml/m ² 0.4ml/m ² <200-300ml/m ²	0.2ml/m ² の2回目 処理は、1回目処理 の1ヶ月程度後を 目処に散布する。 処理後経過を見な がら60日前後で調 査する。		
10. SB-208 顆粒水 和 アザイシ:70% [エス・ディー・エス・パイヤ ック]	コライシ バ	連用薬 継続	J埼玉 新中国G研 (2)	ねらい 連用薬害 対象 雑草 一年生(科) - 一年生広葉 - 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /ml 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.05g/m ² <200ml/m ²	処理後経過を見な がら60日前後で調 査する。	実・継 (実)	[秋冬作; (コライシバ', シバ) 一年 生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.03~0.05g <100~200ml>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 継) ・ 倍量薬害での確認 (コライシバ', シバ) ・ 連用試験での確認 (コライシバ', シバ) ・ 実証試験での確認 (コライシバ', シバ) ・ 緑化木への影響の確認
	シバ	連用薬 継続	J埼玉 新中国G研 (2)	ねらい 連用薬害 対象 雑草 一年生(科) - 一年生広葉 - 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /ml 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.05g/m ² <200ml/m ²	処理後経過を見な がら60日前後で調 査する。	(従来 通り)	

A. 除草剤

注) A(イ)は新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
10. SB-208 顆粒水和 つづき	コウライソ ハ	倍量薬 害 新規	J埼玉 新中国G研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生什科 - 一年生広葉 - 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.05g/㎡ <200mL/㎡> 0.1g/㎡ <400mL/㎡> 0.2g/㎡ <800mL/㎡>	処理後経過を見な がら60日前後で調 査する。		
	Jソハ	倍量薬 害 新規	J埼玉 新中国G研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生什科 - 一年生広葉 - 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.05g/㎡ <200mL/㎡> 0.1g/㎡ <400mL/㎡> 0.2g/㎡ <800mL/㎡>	処理後経過を見な がら60日前後で調 査する。		
11. SB-217 顆粒水和 トリアジフラム:30% アミカルバゾン:10% [ス・デ・イー・ス・バ・イ ツカ]	コウライソ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) コンナド 芝生育期 雑草発生前 0.2g/㎡ <200mL/㎡>	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。	継	継) ・効果、薬害の確認
	コウライソ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 参) キーア 芝生育期 雑草発生初期 0.5g/㎡ <200mL/㎡>	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。		
	Jソハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) コンナド 芝生育期 雑草発生前 0.2g/㎡ <200mL/㎡>	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。		
	Jソハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 参) キーア 芝生育期 雑草発生初期 0.5g/㎡ <200mL/㎡>	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。		

A. 除草剤

注) アダージンは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
11. SB-217 顆粒水和 つづき	日本芝	作用性 新規	植調研	(1) ねらい 対象 雑草 スズメノカタビラ処理時期別効果 一年生仔科 スズメノカタビラ 一年生広葉 - 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他	各処理時期(雑草 発生前、雑草生育 初期、雑草生育期) 別の除草効果の確 認を行う。		
				設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 雑草発生前(スズメノカタビラ1~2葉期) 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 雑草生育期(スズメノカタビラ3~4葉期) 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡>			
12. SB-218 顆粒水和 トリアジフラム:25% アミカルバゾン:10% [エス・ティ・イー・エス・ハイテック]	コウライソ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研	(2) ねらい 対象 雑草 雑草発生前 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。	雑	継) ・効果、葉害の確認
				設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) コクホド 芝生育期 雑草発生前 0.2g/㎡ <200mL/㎡>			
	コウライソ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研	(2) ねらい 対象 雑草 雑草発生前 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。		
				設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 比) カブ 芝生育期 雑草発生前 0.5g/㎡ <200mL/㎡>			
	ソバ	適用性 新規	東日本G研 植調研	(2) ねらい 対象 雑草 雑草発生前 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。		
				設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) コクホド 芝生育期 雑草発生前 0.2g/㎡ <200mL/㎡>			
	ソバ	適用性 新規	東日本G研 植調研	(2) ねらい 対象 雑草 雑草発生前 一年生仔科 全般 一年生広葉 全般 多年生仔科 - 多年生広葉 - その他	処理120日前後で 調査する。 また、休眠遅延(緑 化期維持)効果も 確認する。		
				設計 薬量 <水量> /㎡ 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 対) カブ 芝生育期 雑草発生前 0.5g/㎡ <200mL/㎡>			

A. 除草剤

注)アダージは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
12. SB-218 顆粒水和 つづき	日本芝	作用性 新規	植調研 (1)	ねらい スズメノカタビラ処理時期別効果 対象 雑草 一年生科 一年生広葉 多年生科 多年生広葉 その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 基葉兼土壌処理 雑草発生前 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 雑草発生前期(スズメノカタビラ1~2葉期) 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡> 雑草生育期(スズメノカタビラ3~4葉期) 0.1g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.15g/㎡ <200-300mL/㎡> 0.2g/㎡ <200-300mL/㎡>	各処理時期(雑草 発生前、雑草生育 初期、雑草生育期) 別の除草効果の確 認を行う。		
13. SB-2091 粒 トリアジンファミ:0.15% 75%カハバジン:0.1% [スズ・デー・イス・ハイ ツク]	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生科 全般 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 20g/㎡ 30g/㎡ 40g/㎡ 対) テマツクス 芝生育期 雑草発生前 25g/㎡	処理120日前後で 調査する。	継	継) ・効果、葉青の確認
	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生科 全般 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 20g/㎡ 30g/㎡ 40g/㎡ 参) テマツクス 芝生育期 雑草発生前 25g/㎡	処理120日前後で 調査する。		
	バ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生科 全般 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 20g/㎡ 30g/㎡ 40g/㎡ 対) テマツクス 芝生育期 雑草発生前 25g/㎡	処理120日前後で 調査する。		
	バ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生科 全般 一年生広葉 全般 多年生科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 <水量> /㎡ 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 20g/㎡ 30g/㎡ 40g/㎡ 参) テマツクス 芝生育期 雑草発生前 25g/㎡	処理120日前後で 調査する。		

A. 除草剤

注) アーバーは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
14. SB-2092 細粒 トリアジフロム:0.3% アミカルバゾール:0.2% [エス・ディー・エス・バイotech]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /ml 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 10g/ml 15g/ml 20g/ml 対) アーバー 芝生育期 雑草発生前 25g/ml	処理120日前後で 調査する。	継	継) ・効果、被害の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /ml 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 10g/ml 15g/ml 20g/ml 対) アーバー 芝生育期 雑草発生前 25g/ml	処理120日前後で 調査する。		
	ソバ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /ml 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 10g/ml 15g/ml 20g/ml 対) アーバー 芝生育期 雑草発生前 25g/ml	処理120日前後で 調査する。		
	ソバ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /ml 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 10g/ml 15g/ml 20g/ml 対) アーバー 芝生育期 雑草発生前 25g/ml	処理120日前後で 調査する。		
15. SG-109 顆粒水和 アミカルバゾール:50% [住化グリーン]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 全般 その他 - 設計 薬量 <水量> /ml 茎葉兼土壌処理 芝休眠期 雑草発生前 0.08g/ml <100-200 mL/ml> 0.10g/ml <100-200 mL/ml> 0.12g/ml <100-200 mL/ml> 対) アーバー液剤 秋~春期(芝発芽前) 1mL/ml <200-300mL/ml>	薬剤処理は、12-1 月の雑草発生前 に行い、処理後 60-90日までの調 査を行う。	継	継) ・効果、被害の確認
	ソバ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生什科 全般 一年生広葉 全般 多年生什科 - 多年生広葉 全般 その他 - 設計 薬量 <水量> /ml 茎葉兼土壌処理 芝休眠期 雑草発生前 0.08g/ml <100-200 mL/ml> 0.10g/ml <100-200 mL/ml> 0.12g/ml <100-200 mL/ml> 対) アーバー液剤 秋~春期(芝発芽前) 1mL/ml <200-300mL/ml>	薬剤処理は、12-1 月の雑草発生前 に行い、処理後 60-90日までの調 査を行う。		

A. 除草剤

注)A(グー)は新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
16. SYJ-111 乳 S-メトクロル-83.7% [シジエンタジヤン]	コウライシ バ	適用性 雑	東日本G研 J埼玉 西日本G研	ねらい 雑草発生前 対象雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 - 設計薬量(水量)/㎡ 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 0.2mL <200-300mL> 0.3mL <200-300mL> 0.4mL <200-300mL> 対) りア7-乳剤 芝生育期、雑草発生前 0.7mL <200-300mL>	薬剤処理後60日程度での調査を行う。	実・継	[秋冬作; (コウライシバ、バ) -ミューダグ) 一年生雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.25~0.4mL <200-300mL>/㎡ ・土壌処理 [秋冬作; (シバ) 一年生雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.250.2~0.4mL <200-300mL>/㎡ ・土壌処理
	シバ	適用性 雑	東日本G研 J埼玉 西日本G研	ねらい 雑草発生前 対象雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 - 設計薬量(水量)/㎡ 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 0.2mL <200-300mL> 0.3mL <200-300mL> 0.4mL <200-300mL> 0.7mL <200-300mL> 対) りア7-乳剤 芝生育期、雑草発生前	薬剤処理後60日程度での調査を行う。	継	・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、シバ、バ) -ミューダグ) 実証試験での確認 (コウライシバ、シバ、バ) -ミューダグ) 緑化木への影響の確認 0.2mLでの効果の確認 (コウライシバ、バ) -ミューダグ) 0.2mLにおける年次変動の確認 (シバ)
17. SYJ-192 フロア トリフロキシメトロンナトリウム 塩: 10% [シジエンタジヤン]	コウライシ バ	適用性 雑	東日本G研 門司IC	ねらい 雑草発生前初期 対象雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 - 設計薬量(水量)/㎡ 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 0.02mL/㎡ <100-200> 0.025mL/㎡ <100-200> 0.05mL/㎡ <100-200> 対) ミコント顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250>	最終調査は処理後90日程度で行う	実・継 (従来通り)	[秋冬作; (コウライシバ) 一年生雑草] ・芝生育期、雑草発生前初期 ・0.02~0.05mL <100-200mL>/㎡ ・茎葉兼土壌処理 継) ・年次変動の確認 (コウライシバ) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ) ・実証試験での確認 (コウライシバ) ・緑化木への影響の確認